

今日も「アガリ」

第39話

譲れないプライドがある！の巻

皆さん、こんにちは！ 北海道の雪山で遭難しかけたロブストス高垣でございます。険しすぎる林道で林業組合の山師に置いていかれ、道に迷って隣の山に……。もちろん電波は入らず、日没してマジで死ぬのではないかと本当の本当に心細くて、迎えの車のヘッドライトが見えた時は腰が抜けました。

少し個人的な話になりますが、僕はカラオケに行くとASKAの「PRIDE」を必ず一曲目に歌います。だいたい笑われますが、自分の18番のこの曲を心を込めて歌い上げます。2曲目も3曲目もASKAの曲しか歌わないのですが（笑）。つい先日群馬で開催されたASKAのライブに行ってきたまして、興奮冷めやらぬなかで今月の原稿を書いております!! 自分で曲を作り、自分で詞を書き、自分でギターを弾き、自分でレコーディングをして、自分で編曲して、ステージで全身で声をひねり出すように歌うASKAの圧倒的

なクオリティに感極まり、涙がこぼれました。彼が法律を犯して有罪判決を受けたことは肯定できません。でも、ごまかしようなない純度の高い作業が間違いなく裏にあつて、「お前もそういう仕事をしろよ!」と鼓舞されたような気がしました。

さて、今月は冬シーズン真っ只中。僕の渾身の作品である林業機械用滑り止めチェーン（2019年8月号で紹介）に多く時間を割いたので、もう一度書かせてください。

すべての作業を自分自身でこなした事実が自信に

山から大量の木材を積んで急傾斜を移動する林業現場の安全を守る滑り止めの開発に着手して5年。現場から高い評価を得て、今冬から全国販売にこぎ着けました。とはいえ、うまくいかない現場が出てきては改良を繰り返して、業界



高垣達郎（たかがき・たつろう）
1984年アメリカ生まれ、東京都大田区の町工場街で育つ。2011年に株式会社ロブストスを創業し、農林水産業機械のワンオフ対応を軸に、独自のサービスを構築。A-1グランプリ2011グランプリを受賞。群馬県を拠点に、機械メーカー・ディーラー・農協・農業生産法人など、全国的に取引を拡大している。株式会社ロブストス代表取締役社長。

の誰もが認めるベストセラーにまで仕上げられるかはわかりません。ですが、山に入って、山師の作業を確認して、運搬車に乗って考えて、タイヤを測定し、図面を起こして試作して、感想を聞いて何度も作り直して、トラックで運んで、フォークリフトで整理して、溶接して、電動工具で仕上げて、オリジナル工具を作って組み立てて、山師に組み付け方法を指導して、弁理士と話し込んで特許明細を作り込んで、11社の協力工場と相談して作業工程とコストをまとめて、林業機械メーカーとディーラーと話し合っって定価を設定

し利益配分を定める。これらの作業をすべて自分自身でこなして、ようやく勝負できる準備が整いました。ここまでやり込んで初めてクレームも褒め言葉もすべて受け入れられるし、失敗しても恥ずかしさなど感じることもなく胸を張れることがわかりました。溶接工のミスを自分で補修溶接していた時に、鉄を溶かしながら自分自身が社会に溶け込んでいくような、生まれて初めての感覚になったんですね。僕はすべての依頼に対して「製品ではなく作品」と思っ取組んでいますが、コンサートホールで歌うASKAの姿を見て、さらに仕事の純度を上げていかなければと改めて胸に誓いました。さて、真冬の山で心が熱くなりすぎて雪が融けそうになってきましたので、そろそろ下山して春作業の依頼に取り掛かりましょう! ということで! 今月も一丁あがり! (´▽`)



写真1：滑り止めチェーンの装着例①（モロオカフォワーダ、北海道様似町にて）



写真2：滑り止めチェーンの装着例②（イワフジ工業フォワーダ、群馬県渋川市にて）



写真3：滑り止めチェーンの装着例③（モロオカスキッド、山形県上市にて）